

## 連合福島国際女性デーフォーラム

3月9日（土）

# 押し付けられたジェンダー規範は生きずらさそのもの

## ～女性の活躍には男性の家庭参画が必要～



130名が集い開催された「国際女性デーフォーラム」

連合福島2019春季闘争「連合福島国際女性デーフォーラム」は連合福島青年女性委員会主催で、3月9日（土）に福島市の「ラコパふくしま」において、全県の構成組織と各地区連合から130名が集い開催された。

主催者を代表し大越代表幹事より「国際女性デーは歴史的に女性が差別から立ち上がった日である。

女性の差別は解消されつつあるが、未だジェンダーに基づく規範は根強く残っている、特に育児・家事においては顕著であり、男性の参画をお願いしたい」と参加者に呼びかけた。



クリッシュ・オクサーナさん

さらに、連合福島の今野会長より「日本の男性の家事に費やす時間は海外の半分、育児休業等により女性のキャリアアップがはかかれていない。女性の地位向上を始め社会の不条理を労働組合として解消をして頂きたい」と連帯の挨拶を受けた。続いて講演では、ウクライナからの筑波大学に留学をしているクリッシュ・オクサーナ氏から「ウクライナからみた日本の魅力・女性活躍について」と題し講演を頂いた。また、講演後には連合福島の八巻由美執行委員がコーディネーターを務め、オクサーナ氏を含め海外から日本への留学生4名と日本の文化、女性の働き方の違い等についてパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、日本人として当たり前であることが海外から見ると新鮮（興味深い）であったり、海外ではベビーシッターを活用し女性の社会進出をしている事例や日本の働き方においては、日本の労働者が休暇を取らないことに対し、「海外では良い仕事には十分な休養が必要だということが認識されている」という意見も出され参加者から大いに賛同を得ていた。最後に司会を務めた青年女性委員会の土棚幹事から参加者に女性の地位向上、男女平等の取り組みのお願いをして連合福島国際女性デーフォーラムは幕を閉じた。



主催者挨拶・大越香代子委員会代表幹事



連帯の挨拶・今野泰連合福島会長



司会を務めた、土棚幹事



コーディネーターを務めた連合福島八巻由美執行委員



左から、参加者の皆さん、講演会の様子、パネラーの皆さん